

一 告 告 一

KIT
キャンパス
レポート 2018
文・出島二郎
マーケティングプランナー

夢考房プロジェクトに魅かれ 航空システム工学科へ。



矢崎由実子（やさき ゆみこ）
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
長野県立諏訪清陵高等学校出身

リケジョ、ドボジョ、さらにはメカジョというのもあるらしい。やたらと「女子」「男子」をつけることには疑問を持つが、男子の職業という既成概念はなくなりつつある。昔から理系の好きな女子は少なからずいたのだから。私の取材する金沢工大の学生に男女のこだわりはない。矢崎さんもそうだ。

「子供のころ、使わなくなつた

電化製品を兄と二人で分解して遊んでいました。そして宇宙開発や航空系に興味を持ち、国際宇宙ステーション「きぼう」の本を読みながら、宇宙に関連する機械を作るのがおもしろそうだなと。大学は、夢考房の人工衛星開発プロジェクトに魅かれ、この航空システム工学科に決めました。」
学部一年の時の研究室訪問で、

動くものが好きな矢崎さんは、実際にエンジンを使って実験している土屋研究室に興味を持った。決めたら一途、というタイプである。指導する土屋利明教授の専門は、ガスタービン、ターボ機械、熱機関、エネルギー・環境である。

「先生は、数値の単位の大切さや実験の準備の重要性など、基本的なことは何回も何回も説明してくれます。身体全体に染み渡るぐらい（笑）。実験では模型飛行機用のジェットエンジンを使うので、必ず先生の立ち会いの下、院生や学部生に協力してもらいながらやっています。先生の教育方針で四年次から多くの学会に参加し、発表にも慣れてきました。人前に立つのは苦手ですが、緊張するけど、ストレスは減ってきたかなと。」
研究テーマは「シエプロンノズルが小型ターボジェットエンジンの性能と騒音に及ぼす影響」である。鋸歯状のシエプロンノズルは

騒音低減策として実用化されているが、矢崎さんは推力などエンジン性能への影響に着目している。

「ガスタービンって、構造やシステムはシンプルだけど、大きなエネルギーが得られて、いろんな使い方ができ、社会の基礎を支えているのが魅力だと思っています。金沢工大は、学べる場がたくさんある大学です。私は学部三年で夢考房の運営委員会の副リーダーを経験し、昨年はボーイング・プログラムにも参加。何より、自分が興味ある分野を突き詰められたし、具体的に仕事としてやりたいことを見つけられました。」

就活はガスタービンの設計・開発・製造のメーカーへ。女性は少ない環境だと思うが、むしろ私の杞憂にすぎない。イキイキと働く矢崎さんの姿が浮かんできた。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘五七一
電話番号（〇七六）二四八二一〇〇